

第80回 Forbesによる「30 UNDER 30」

-30歳未満の世界の未来をつくるトレイルブレイザー(先駆者)たちを表彰

Aya Kubosumi ノマドマーケター

「マーケティングの出番ですか？」と題して、主に、モノづくり企業で製品開発、生産に従事される技術者の方々を対象に、お仕事に“役立つ”、“必要な”、そして“面白い”マーケティング関連情報、知識、事例、最新トピック等を幅広くご紹介させていただきます。

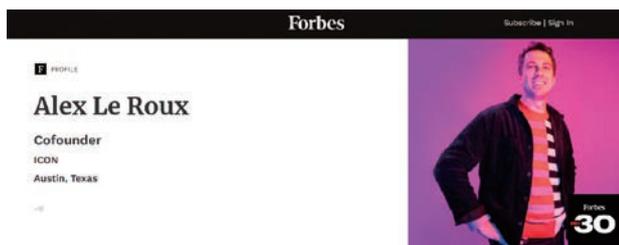
今回は、昨年12月に発表された、Forbesによる「30 UNDER 30 (北アメリカを変える30歳未満の30人)」の2021年候補者600人のリストから、ポジティブな未来を感じさせてくれる若者起業家の二人をご紹介します。

●Forbesによる「30 UNDER 30」

2021年の"30 UNDER 30"は10周年を迎え、2020年12月に、起業家、活動家、科学者、エンターテイナーなど600人の候補者が発表されました。未曾有のパンデミックを経験するなか、今年の候補者はCovid-19にもかかわらず、病院で働く医療従事者を支援したり、A.I.を活用して新たな薬を発見したりと果敢に事業創造に立ち向かっている若者から、TikTokやYouTubeのインフルエンサーなど、様々な若者がノミネートされています。平均年齢は26.6歳、最年少は15歳。候補者600人のうち、およそ20%が62か国からの移民です。

巨大3Dプリンターで建てた コンクリートの家で低所得者地域を救え (Alex Le Roux氏、ICON社)

1人目は、巨大3Dプリンターで家をつくるICON社のファウンダーである、カナダ出身のAlex Le Rouxさん。日本でもニュースやネット記事で紹介されているので、ご存知の方も多岐にわたるかもしれません。



画像：Forbes サイトより引用

Alex Le Rouxさんは大学在学中に、「もし3Dプリンターがもっと大きかったらどうだろう？コンクリートを使えたらどうだろう？」と考え、24時間で30%も安いコストでコンクリートの家を作る事業を立ち上げました。彼が共同創業したICON社で、2018年に初めてアメリカで規格基準に適合した3Dプリンターの家を建て、その後テキサス州オースティンにホームレスのための家を建築、その後メキシコにも進出し、メキシコでは低所得者層のコミュニティに安価な3Dプリンター住宅を供給するプロジェクトを展開しています。すでに\$44 million (約45億円)というビッグマネーが投入され、最近NASAが月面に建造物を作る方法の検討プロジェクト、プロジェクトオリンパスに参画してプロジェクト支援のファンドも獲得しています。

ICON社は、建設業界が抱える3つの課題、1. Affordability (価格の高さ：平均的な人でも家を買えない)、2. Sustainability (サステナビリティ：住居建築



画像：ICONサイトより引用

は非効率で不経済)、3. Availability (入手可能性：10億人の人が必要な最低限の住まいを持ってない)に対して、ミッションとして"ICON社は、3Dプリンティングロボットやソフトウェア、先進的な素材を活用し、人類(人間性)を前進する、先進的な建築技術を開発します"と表明し、ビジネスを通じて課題解決を成し遂げようとしています。

3Dプリンターというテクノロジー主導の建築ビジネスですが、全ての人に住まいを届けるという社会課題、サステナビリティや建築・建設業界自体を革新するという複数の課題の同時解決を目指して活動していることに感服します。



画像：ICON社の3Dプリンター

二酸化炭素をより多く吸収する樹木の 開発で気候変動、環境問題に立ち向かえ (Maddie Hall氏、Cofounder, Living Carbon)

2人目は、サンフランシスコベースのバイオテクノロジースタートアップ、Living Carbon社を創業したMaddie Hallさん。なんと、従来よりも二酸化炭素をより多く吸収する樹木を開発し、気候変動という大きな環境問題にチャレンジしています。因みに、彼女の祖母は植物学者、祖父が木こりで、自然と樹木に対しての関心を持つようになったといいます。

Living Carbon社は、遺伝子組み換え技術で、従来の木より多くの二酸化炭素を吸収、蓄積することができる



画像：Forbes サイトより引用

ポプラや松の木を開発しています。他にも、従来よりも早く生育し、かつ、同等の天然素材と比較して耐久性が高い木材となる樹木を開発しており、Living Carbon社は自動車業界のテスラならぬ、木の"テスラ"を目指す彼女は公言しています。

Living Carbon



画像：Living Carbon社サイトより引用

Living Carbon社が紹介しているデータによれば、従来と比較して40%早い木の成長率で、年間1ヘクタール当たり3.4から5.0トンの二酸化炭素削減を実現、また従来と比較して年間1ヘクタール当たり1.4倍の二酸化炭素を貯蓄することで、年間およそ1.4から2.0ギガトンの二酸化炭素を回収する可能性があるといます。日本でも農林水産省や経産省などで同様の研究開発が以前から展開されているようですが、一介のベンチャー企業がこのような大きな技術開発に挑戦し、ビジネスとして展開しようとしているという点で、Living Carbon社はテスラに似た匂いと未知なる可能性がぶんぶん漂ってきます。Living Carbon社のウェブサイトにはほとんど具体的な情報掲載がなく、ベールに包まれた同社ですが、この未来のスーパー樹木が地球の気候変動を救う日が訪れることが楽しみです。

●業界や既存の既成概念を軽やかにぶち壊せ！

2人の事業や活動に共通しているのは、「既存業界や既

成概念が抱える矛盾や課題に疑問を投げかけ、事業や活動を通じて刷新する」という点です。そして、特定の顧客だけでなく、業界やステークホルダーが抱えるジレンマや複数の課題にも取り組んでいます。感性や感度の高いアンテナ、テクノロジーなど、若者の強みを利して既成概念や既存業界が抱えるジレンマをひらりと軽やかに乗り越えているように見えますが、自身の体験から感じたことや違和感と愚直に、実直に向き合い続けているからこそ、課題解決を蝕んでいる固定概念を刷新し、新たなイノベーションや価値提供を目指した活動が可能になっていると感じます。

まあいいかと呑み込んだり、仕方ないからとあきらめてしまっていることが多い中、少しでもできる体験や経験から、自分の違和感を掘り起こし、課題に真摯に向き合いたいものです。

当コラムのより詳細なオリジナル版は、<https://www.mo4ma.org> でご覧頂けます。



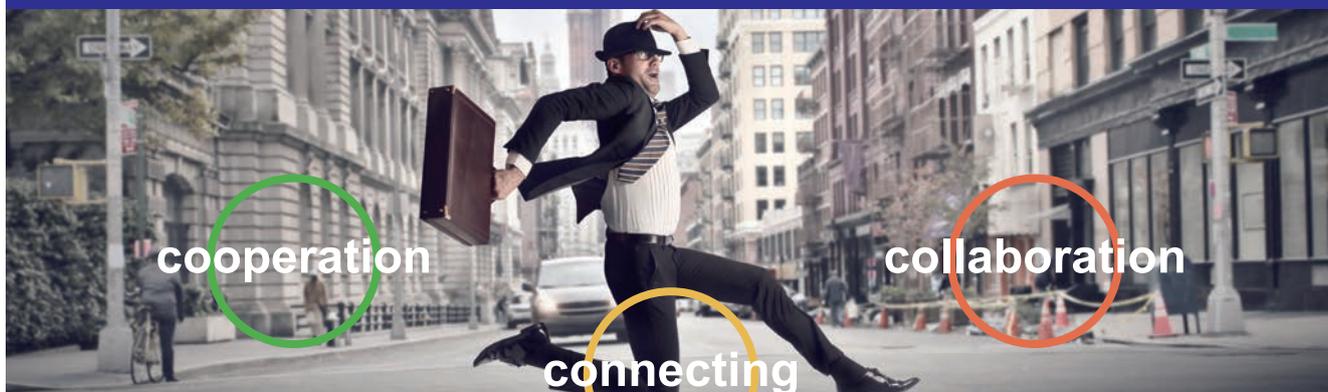
Aya Kubosumi (ノマドマーケター)

コニカミノルタ、大阪ガスで行動観察やユーザーリサーチに携わったのち、GOB Incubation Partnersを創業。夫の転職に伴い、東京から家族とともにNYに移住。ノマドマーケターとして、NYの人々、もの、こと、を日々観察、体験したことを素材に、日本の商品開発に携わる皆さまと共有したいインサイトを綴ります。

独創的な新製品／サービス・事業開発を実現する マザー・マーケティングプラットフォーム

mo4ma

thership rkers



mothership4marketersは、業種、組織、時間、距離を超えて内外のマーケティング実務者をオープンに結びつけ（Connecting）、共同（Cooperation）、協力（Collaboration）することで新製品／サービス・新事業開発を成功させる『次なる段階』のマザー・マーケティングサービスプラットフォームです。



mo4ma
<https://www.mo4ma.org/>

テンプロクシー 〒153-0065 東京都目黒区中町2丁目50番13サ・ピーク4F号 Tel. 03-6412-8780 info@mo4ma.org
ウェルコインターナショナル 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-10-9 原宿筆友ビル 8F Tel. 03-6418-5519 info@wellco.org

資料請求番号 12102-03701